



図書館の増築、成る

東京支部長
近藤和美

洲本高校同窓会の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。この度、同窓会では倉本昌明氏が会長職を勇退される旨報じられました。倉本会長におかれましては、洲高創立百周年の大事業を成功に導かされました事は申すに及ばず、私たち後輩の為に数々の功績を残されました。中でも東京支部の設立に関しましては力強いご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

これからも顧問として変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

また、後任会長に三根一乗氏をお

挨拶

百十周年を目前にして、一層のご活躍をお祈り申し上げます。

さて、昨年十一月に、東京地区同窓会員の強い要望と同窓会本部・母校洲本高校並びに地元関係団体のご支援を得て、洲本高校同窓会東京支部(通称 東京洲高同窓会)が無事誕生いたしました。

設立総会会場となりました東京霞ヶ関ビルのホールには、百三十名の同窓会員の出席を得、ご来賓として本部役員の方々・現洲本高校校長並びに東京波路会会長の

ご出席とともに、盛大な開会式を行いました。同窓会員の平均卒業生数は、昭和四十年に比して約五分の一と大きく減少しております。

とです。淡路島も例外ではありません。平成になってから、東京とその近郷に住む同窓会員の平均卒業生数は、昭和四十年に比して約三分の一と大きく減少しております。

尚、本年度の東京支部総会は十一月十一日(土)昨年と同じ霞ヶ関ビルにて開催の予定です。今後とも宜しくご支援ご協力をお願い申し上げます。

このたび開架図書館にて、
映像スクリーンも取りつけ、最後にふるさと淡路島の一層の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。

これが西日本で最も古い開架図書館で、一つの歴史的記念碑となつて、全国的に見ても珍しいものとされるべきである。

ここに、本校卒業生や職員が利用するところです。

映像スクリーンも取りつけ、最後にふるさと淡路島の一層の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。

このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。

これまで、開架スペースが小さく、閲覧・学習スペースも小さいものでした。このたび校舎耐震補強工事に合わせて、図書館増築を県に要望していたところ、ほぼ学校側の要望どおり一月末に完成しました。同窓会からも過分の寄贈を受けましたので、その概要を報告し、お詫びをいたします。

(前図書部長 北原文雄)

【経過】
昭和四十年代に現在の校舎が建てから、本校図書館は南校舎四階にありました。前の木造図書館に劣らないほど広い図書館でした。その後生徒の急増期と視聴覚教育推進がなされる中で、同窓会館二階の元食堂を改造して移転しました。

学習・閲覧スペースが小さく、書庫に隠れたままで、生徒の目に触れないところで休眠していました。これまで何回も県へ増築の要望をしてきましたが、予算化されませんでした。さらに近年はパソコン検索を必要とする「調べ学習」が多くなり、狭さに難渋していました。

昭和四十年代に現在の校舎が建てから、本校図書館は南校舎四階にありました。前の木造図書館に劣らないほど広い図書館でした。その後生徒の急増期と視聴覚教育推進がなされる中で、同窓会館二階の元食堂を改造して移転しました。

学習・閲覧スペースが小さく、書庫に隠れたままで、生徒の目に触れないところで休眠していました。これまで何回も県へ増築の要望をしてきましたが、予算化されませんでした。さらに近年はパソコン検索を必要とする「調べ学習」が多くなり、狭さに難渋していました。

昭和四十年代に現在の校舎が建てから、本校図書館は南校舎四階にありました。前の木造図書館に劣らないほど広い図書館でした。その後生徒の急増期と視聴覚教育推進がなされる中で、同窓会館二階の元食堂を改造して移転しました。

学習・閲覧スペースが小さく、書庫に隠れたままで、生徒の目に触れないところで休眠していました。これまで何回も県へ増築の要望をしてきましたが、予算化されませんでした。さらに近年はパソコン検索を必要とする「調べ学習」が多くなり、狭さに難渋していました。

これまで、開架スペースが小さく、書庫に隠れたままで、生徒の目に触れないところで休眠していました。これまで何回も県へ増築の要望をしてきましたが、予算化されませんでした。さらに近年はパソコン検索を必要とする「調べ学習」が多くなり、狭さに難渋していました。

これまで、開架スペースが小さく、書庫に隠れたままで、生徒の目に触れないところで休眠していました。これまで何回も県へ増築の要望をしてきましたが、予算化されませんでした。さらに近年はパソコン検索を必要とする「調べ学習」が多くなり、狭さに難渋していました。

これまで、開架スペースが小さく、書庫に隠れたままで、生徒の目に触れないところで休眠していました。これまで何回も県へ増築の要望をしてきましたが、予算化されませんでした。さらに近年はパソコン検索を必要とする「調べ学習」が多くなり、狭さに難渋していました。

これまで、開架スペースが小さく、書庫に隠れたままで、生徒の目に触れないところで休眠していました。これまで何回も県へ増築の要望をしてきましたが、予算化されませんでした。さらに近年はパソコン検索を必要とする「調べ学習」が多くなり、狭さに難渋していました。

工事が完了した本年一月に、増築された図書館も完成しました。

このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。

このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。



このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。

このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。

このたび開架図書館は、この間の図書館でござります。



確かな学力と規律ある生活の定着を目指して

全日制課程 教頭

不動亨

会員の皆様、いかがお過ごしですか。

平素は、本校諸活動にご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

私は、四月に着任致しました不動と申します。二十一期生ですが、

本校には初めての勤務です。高校時代に郷里で学んだ経験は、心のふるさとであると同級生はよく口にします。

感性豊かな高校時代を、「いまを大切に、いましかできないこと」に、精一杯取組むことは、一生の基盤づくりになります。

感性豊かな高校時代を、「いまを大切に、いましかできないこと」に、精一杯取組むことは、一生の基盤づくりになります。

では、本校の近況報告をおこないます。本年三月末をもって、耐震補強工事が完了し、重厚でタリーンな工事が從来の一・五倍の広さにリニューアルされ、同窓会からも書類を寄贈していただき、すばら

しい施設を備えた県下でも有数の図書館に生まれ変わりました。同窓会員の皆さんも、装い新たな校舎を是非ご覧になってください。

期待に応える定時制に

定時制課程 教頭 岩本文男

本年四月一日現在の在籍生徒数は一三〇名(男子八十一名、女子四十九名)で卒業生の数も平成十四年度末で千二百四十八名を数え、島内の行政・地場産業・伝統文化・教育等の分野で活躍しています。

多くの定期制の課題が定員を充足できない中で、本校では安定したほぼ定員に近い生徒が入学しております。基礎基本の学力を付けるために本校では少人数授業やチームディ

ーチングを取り入れ個別授業を重視した授業に取り組んでいます。マナーの向上については毎月の全校集会での指導や、学校行事で地域の方々の参加により異世代の人々と共に活動することによって自分

の存在意義に気づき、マナー向上させる良い機会となっています。最近では定期制は勤労生徒に学習の機会を保障するだけではなく、いじめや不登校により中学校に行けなかった生徒が、かなりの割合で入学しております。

その生徒達がやり直しをかけて

6位入賞しました。陸上女子で近畿大会での優勝は十五年振りで、2種目優勝は本校初の快挙です。

ボート女子では、萩田枝理(三年生)が、シングルスカルで県大会優勝、近畿大会では、クオドルブト車両大会で、テレビドキュメン

ト部門で四位に入賞しました。

全 日 制 創 立 記 念 式 典

五月十日(水)第百九回創立記念式典が執り行われました。内容は、式典・記念講演会で、講師は洲高二十八期スポーツライターの野口純正氏、「好きこそもの上手なれ」志上手なれ、志あるところ道ありき」という演題でご講演いただきました。講演の要旨は左記のとおり。

「好きこそもの上手なれ」「志あるところ道ありき」ということでお話します。自分の好きなことをやる。それで生活が成り立つ。それが他人に評価される。これは最高の「自己実現」だと思います。私の今の仕事は記録の集計、五輪・世界大会等主要大会の取材、日本陸上競技連盟委員としての仕事を、母校東京芸術大学陸上競技部のコーチなどです。まさに、陸上競技と深く関わりを持っています。その道のりは、まず小学校時代ですが、数字をノートに記入する

た、中学・高校で勉強

競技場に足を運べなくなり、フリーに。現在に到っています。人生とは、長いものです。どうせならやりたいことをやりましょ。それでは、「ひらめき」が大切です。また、中学校で勉強したことと並んで、私はまだ実感はないでしょうかが、今やっている勉強は将来必ず役立つます。しっかりと勉強し、最高の「自己実現」を果たしてください。

編集長となってからは競技場で陸上競技部に入部。大会の記録を集めたり、将来自由に走り幅跳びで谷那(三年生)も走り幅跳びで谷那(三年生)も走り幅跳びで谷那(三年生)も走り幅跳びで

定時制創立記念式典

五月十日(水)



五十九回創立記念式典は、五月十日午後六時から本校集会室で挙行されました。式典の後、三長千恵子さんと「私の歩んだ道」と題して記念講演をしていただきました。その後、講演では、看護師として病院に勤務しながら定時制に通学していた時代の思い出や苦労話の他、「ゆつくりでよいから夢を持って進んでいってほしい」と後輩たちを励ました。

恵子さんは、中学校卒業後、二年間准看護学校に通学ながら看護師の仕事をされた後、本校に入学し、星は准看護師として働き、夜は本校で学ぶ生活を四年間されました。本校卒業後は、看護学校助産士学校と進み、現在県立淡

会に入会。教育学部に進学する」とを決意しました。

大学時代は、陸上競技マガジン編集部に出入りするようになり、日本陸上競技連盟委員となりました。四年の時は、兵庫県の教員採用試験を受け合格したが、陸上競技マガジン編集部から説いて受け、そちらに変更。より深く陸上競技と関わりたいとの考えを貫きました。

入社後は、次長職まで「幸せ」と「充実」を感じていましたが、競技マガジン編集部から説いて受け、そちらに変更。より深く陸上競技と関わりたいとの考えを貫きました。



洲中四十七期生

輪番にて持廻っている、洲中学校第四十七期同窓会を本年度津名郡在住者当番にて去る十一月十四日、津名ハイツにて催した。

加給とともに欠席者が多くなつてまいりましたが、総勢三十五名（内島外十名）の出席を得た。

慣例により、洲本中学校校歌（第一）を高田弘文君指揮により、一同齊唱。学生時代に回顧し会を盛り上げた。その折、高田君から、作曲が東京音楽学校とあるのみで個人名が不明であるが、梶原和正氏（元津名中学校長）からお聞きしたところによると、當時、東京音楽学校（現東京芸術大学）に在学していた

柏木俊夫氏、
(生穂長沢出身)
であるとのこと。

作詞の青木正氏
(志筑出身)、共
・津名郡出身。と
いうことになる。

当番に当った津名郡在住、何かの因縁を感じ、この折、正確に作曲名を明記すべく調査されることは如何かと提案する次第。七十五年前のこととで
ど……。(U)

洲高窓会報

第二十二回

北斗会総会開催される

平成十八年二月十八日午後

いただく旨、報告
がありました。

業として鑑賞して
県議会議員の「淡

路島の将来」につ
いて講演熱い人づ

いた講演に会員は熱
心に聞き入ってお
りました。

一年振りの懇親
会では皆、親交を深め午後八時名残を惜しんで散会しました。（細川）

手「いしさかびんが」リサ
イタルを洲本交流センターにて開催する。そのおりには洲

本高等学校定時制生徒には学



私は昭和十九年の卒業です。喜寿を迎えるました。どうなが決めて下さったのか、これから何度集れるかわかりませんが今後ともどうぞよろしくお願い申しあげます。（片井満子）

私が百二十人分通信費をいた
す。喜寿を迎えたしました。どうな
が決めて下さったのか、これから何度集れるかわかりませんが今後ともどうぞよ
ろしくお願ひ申しあげます。（片井満子）

人生を歩んできました。
だから有難うございました。
だから何度集れるかわかり
ませんが今後ともどうぞよ
ろしくお願ひ申しあげます。

戦争終戦をして進学就職…

平和な現代の人達には想像を
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）

淡路高女三十八回生（瑞葉会）

洲中四十五期生、喜寿を祝う会

平成十七年九月二十四日 海月館

地のまこと」は何故か歌わざ
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）

地のまこと」は何故か歌わざ
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）

人生を歩んできました。
だから有難うございました。
だから何度集れるかわかり
ませんが今後ともどうぞよ
ろしくお願ひ申しあげます。

戦争終戦をして進学就職…

平和な現代の人達には想像を
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）

淡路高女四十三期・ 洲本高校一期同窓会

淡路高女四十三期・ 洲本高校一期同窓会

洲本高校一期同窓会

洲本高校一期同窓会

洲本高校一期同窓会

洲本高校一期同窓会

洲本高校一期同窓会

洲本高校一期同窓会

私は昭和十九年の卒業です。喜寿を迎えるました。どうなが決めて下さったのか、これから何度集れるかわかりませんが今後ともどうぞよろしくお願ひ申しあげます。（片井満子）

人生を歩んできました。
だから有難うございました。
だから何度集れるかわかり
ませんが今後ともどうぞよ
ろしくお願ひ申しあげます。

戦争終戦をして進学就職…

平和な現代の人達には想像を
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）

地のまこと」は何故か歌わざ
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）

地のまこと」は何故か歌わざ
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）

地のまこと」は何故か歌わざ
じまいでした。来年は是非歌
いたいと思います。（文責 不動 敏）



2006年(平成18年)9月5日発行

青春の気張る五月の好季節
一泊二日で南淡路休暇村の新
館落成オーブンの日に合わせ
て同窓会を開く事が出来まし
た。北は盛岡、宇都宮から関
東方面の方々も参加され、五
十七名のなごやかな会となり
ました。戦中戦後のはざまに生きた
私達は激流に棹としての如く
氣丈にふんばって励まなければ
は流れられそうな時代でした。

卒業以来初めての方も十数名、
う。



還暦の小同窓会三つ

(洲高十六期生)

「洲高十六期生の同期会は「天地会」と称して、五年ごとに開催している。昨年、卒業四十年記念同期会を盛大に開催したばかりである。昨年は世にいう還暦なので、全体の同期会を連続してやろう」という声もあつたが、五年ごとのサイクルを変えなかった。

実は五年ごとの「天地会」の間に、関東・近畿・淡路の三地区で「小天地会」を開催している。数年に回のところ、毎年開催しているところもある。昨年は三地区とも最初に開催したのは「関東地区小天地会」である。二月四日に赤坂の「ピストロボンファーム」に十一名が集まつた。関東地区には

二十名ほどしかいないから半数集まつたことになる。年ぶりの開催だった。話が弾んで、これから毎年開こうということになった。本年四月二十八日に、「三井アーバンホテル銀座」の中華料理店「桃源閣」で開催した。筆者の上京に合わせてくれたので同席させてもらった。十三名の出席の中に、卒業以来初めてお会いする方もいた。

十一月二十六日に「近畿地区小天地会 還暦のつどい」を「舞子ビラ」で開催、四十一名が出席。全員がスピーチをするにはちょうどよい人数である。還暦まで元氣で生きていった心境や、老いの世代の生き方を語る人が多かった。現在入院中の藤本英彦先生も「チュー

ー二十名ほどしかいないから半数集まつたことになる。年ぶりの開催だった。話が弾んで、これから毎年開こうということになった。本年四月二十八日に、「三井アーバンホテル銀座」の中華料理店「桃源閣」で開催した。筆者の上京に合わせてくれたので同席させてもらった。十三名の出席の中に、卒業以来初めてお会いする方もいた。

十一月二十六日に「近畿地区小天地会 還暦のつどい」を「舞子ビラ」で開催、四十一名が出席。全員がスピーチをするにはちょうどよい人数である。還暦まで元氣で生きていった心境や、老いの世代の生き方を語る人が多かった。現在入院中の藤本英彦先生も「チュー

ー」への熱い思いを語つておられた。十二月十二日には淡路の「小天地会」を「淡路夢泉景」で開催。これは全体同期会の世話人を中心とした会

で、毎年のように開催している。三十一名が出席。幹事が赤い半纏を紙でつくって全員に配り、これを身につけての記念撮影は圧巻だった。

(文責 北原文雄)

神戸で同窓会

定時制三期生

(昭和二十九年卒)

第二十四期生同窓会

平成四年一月二日から丸十一年の年月を経て洲高第二十四期生の同窓会が先生六名を含む八十六名の参加下さいました。一月二日御食国横ターム・アフター・タイムで開催されました。

平成十七年度の幹事役は、神戸在住者(記虎、田中)が当番である。日時は年明け一月二十二日(日)、場所は新幹線の新神戸駅の近く。会場は某大企業の施設である。一流老舗店並の和食を会費四千円で貰味してもらうことができ、満足していた。別荘として建築された建物は庭の手入れが行き届いており、

同窓会は、卒業以来、毎年欠かさず続けて、現在にいたつている。しかし同窓会報に記事を載せていただくのは、今回が初めてである。先づは、お礼申し上げます。

同窓会は、卒業以来、毎年欠かさず続けて、現在にいたつている。しかし同窓会報に記事を載せていただくのは、今回が初めてである。先づは、お礼申し上げます。

り、窓越しの眺めは抜群。例年と異なり、昼食会であったことも、新しい趣向として、好評であった。出席者の顔触れは、写真前列(女子)左から永山、高田、谷、福谷(担任)、市川、井上の五名、後列(男子)左から記虎、印部、山口、田所、澤、守上、田中、山平の八名、合わせて十四名である。

特記すべきは出席者のなかに、守上良幸君(洲本)がいたこと。卒業以来初めてといつてよいほど、久しぶりのことである。鐘紡の紡績技術者であつた同君は、合併会社の工

場での技術指導で、ブラジルやインドネシアなど海外勤務が多かった由。当日は同窓を中心たことはいうまでもない。

散会後、所用のある人以外の者は、三三五五、市内を開催中の小磯良平展(県立美術館)とナポレオン・ペルサイユ展(神戸市立博物館)にかけ、有意義な一日であった。



卒業後初めての全体同窓会を平成十八年一月一日、ホテルニューアワジにて開催いたしました。

当時は喜田剛史・赤堀慎二・南先生をお迎えし、百二十四名の同窓生が一同に会しました。なにしろ三十年ぶりの再会だったため、出席者たちは顔と名前が一致するまでに時間がかかりました。池田鉄司・松林真弘両君の司会で和やかに会が流れました。また、グラスごとの当時のエビソードを一組から順に井上賀夫君、前田俊哉君、岡本昌宏君、加藤順弘君、西邑佳己君、番所智保君、萩野雅彦君、畠田卓也君らが語ってくれました。先生からもお言葉をいただき、最後に、西村直樹君が閉会あいさつで締めくくりました。

(執筆 酒井規行)

第二十九期生同窓会



卒業後初めての全体同窓会を平成二十二年一月二日と決定させました。そこでお知らせします。今回参加していただいた方はもちろん、残念ながら欠席だった方も次回はぜひ出席下さい。三年後の再会を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

平成四年一月二日から丸十一年の年月を経て洲高第二十四期生の同窓会が先生六名を含む八十六名の参加下さいました。一月二日御食国横ターム・アフター・タイムで開催されました。

年明け一月二日、会場は某大企業の施設である。一流老舗店並の和食を会費四千円で貰味してもらうことができ、満足していた。別荘として建築された建物は庭の手入れが行き届いており、久しぶりのことである。鐘紡の紡績技術者であつた同君は、合併会社の工

場での技術指導で、ブラジルやインドネシアなど海外勤務が多かった由。当日は同窓を中心たことはいうまでもない。

散会後、所用のある人以外の者は、三三五五、市内を開催中の小磯良平展(県立美術館)とナポレオン・ペルサイユ展(神戸市立博物館)にかけ、有意義な一日であった。

後には携帯電話の番号の交換へと、これをきっかけにさらに交流を深めることができることでしょう。予定の二時間はあと二時間に過ぎ、いつしかお開きになりました。当時の写真を見なが

に、面影をたよりに直ぐに打ち解けあえるのはやはり一番楽しい時代であったと思われます。海老実行委員長の挨拶の後、先生方の近況をお伺いいたしました。当時の写真を見ながに時間のように思い出されるのも、年をとった証拠かもしれない。しかし現在のこととに移り、最

た。あつという間の会でなごりは尽きず、第二回同窓会を平成二十二年一月二日と決定させました。そこでお知らせします。今回参加していただいた方はもちろん、残念ながら欠席だった方も次回はぜひ出席下さい。三年後の再会を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

平成四年一月二日から丸十一年の年月を経て洲高第二十四期生の同窓会が先生六名を含む八十六名の参加下さいました。一月二日御食国横ターム・アフター・タイムで開催されました。

年明け一月二日、会場は某大企業の施設である。一流老舗店並の和食を会費四千円で貰味してもらうことができ、満足していた。別荘として建築された建物は庭の手入れが行き届いており、久しぶりのことである。鐘紡の紡績技術者であつた同君は、合併会社の工

同窓会報告

第三十二期生

「前回の同窓会で五年後にまた会いましょう。」と言つてから早や五年が過ぎ、平成十七年八月十四日(日)にホテルニューアワジにおいて二期生の同窓会を行いました。

当日は、男性三十三名、女性五十八名の合計九十一名が出席し、五年ぶりの旧交を深めました。

恩師の先生は、田中三喜先生、三浦富子先生がご臨席下さいました。我々三十二期生は、四十三歳、四十四歳でいわば人生においてちょうど中間のミドルエイジです。年齢を重ねると、月日の過ぎて行くのが早く感じ、五年と言う期間はとても短いように思われますが、五年後に級友と再

会してみると、それぞれの人生にまた年輪を重ねているように感じました。

同窓会は何の余興がなくとも、三時間があつて言う間に過ぎ、二次会も約七割が引き続

き参加してくれて盛況のうちに終え

事ができました。

(二〇〇五年度第

三十二期生同窓会 実行委員会代表幹事 山中浩樹)

平成十八年一月三日、卒業して十六年、第四十二期生同窓会を初めて開催しました。恩師七名と卒業生九十一名、合わせて九十八名出席、とにかく緊張感の中、当時学年主任を担当されていました。富本先生の乾杯の音頭で始まりました。

各先生方の挨拶、指名制の自己紹介で盛り上がり、会場は歓喜の声でいっぱいになりました。卒業以来の再会で、顔と名前がなかなか一致せず、即席で名札を作成して当時を振り返り、懐かしいいるうち二年半がすぎ、最後に記念撮影をして修了しました。

去年の夏に発案して半年足

らずで準備し、あれりと不安もありましたが、協力してくれる仲間と助け合いながら、抜群のチームワークで大成功、感無量でした。

ただ一つ残念だったのは、住所不定不明者が百名近くにのぼり案内状が全員の手に届かなかつた事です。

次回は、こんなに同窓会名簿の登録をお願いしたいと思います。

第四十二期生同窓会



第三十八期生(八青会) 同窓会



一九八四年卒の我々三十六期生は、一月一日淡路夢泉景において卒業後二度目の学年同窓会を行いました。元旦といふ日程にもかかわらず、安積先生・太田先生・富本先生・波毛先生・矢尾田先生という五名の恩師の先生方に参加して頂き、大変感謝しています。

四十歳という人

生の節目に再会したのですが、同級生達は二十二年前

と変わらぬ様子で、近況報告や昔のエピソード話に大いに盛り上がりました。

洲高時代のエネルギーを皆それ

ぞれの日常生活に持ち帰り日々の活動にできるような、楽しい時を過ごすことができました。

ただ、男性の一部



第三十六期生同窓会

様でした。お陰で盛大な会に終わりました。三十六期生のご多幸と洲本高校の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

第39期生同窓会



洲本高校第39期生 同窓会 平成18年1月2日
於: ホテルニューアワジ



平成17年度 収支決算書

兵庫県立洲本高等学校同窓会・平成18年3月31日現在

総 収 入 額	¥ 9,677,775
総 支 出 額	¥ 6,198,006
残 額	¥ 3,479,769

一般会計

1. 収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
前年度繰越金	5,671,882	5,671,882	0	
入会金	560,000	562,000	2,000	全日制340名 定時制40名 中途入学者1名
会費	3,400,000	3,240,370	△159,630	全 日 制 756名 3,024,000 定 時 制 16名 192,000 終身会員・3年会員 24,370 そ の 他 3,240,370
雑収入	218,118	203,523	△14,595	会報広告料・預金利息他・講師寄付金・等
合計	9,850,000	9,677,775	△172,225	

2. 支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
事業費	4,797,652	4,276,827	520,825	
内訳				
会費	600,000	581,396	18,604	講師謝金・交通・会場費等
会報費	1,200,000	993,256	206,744	印刷代金・郵送費等
慶弔費	200,000	151,694	48,306	会員・生徒・職員慶弔費
部活動費	700,000	525,160	174,840	近畿・全国大会・助成金等
合計	9,850,000	6,198,006	3,651,994	

2. 支出の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
資料整備費	200,000	197,295	2,764	資料館整備費・ダスキン等
定時制活動費	200,000	200,000	0	講師謝金・交通費・定時制歎時記等
卒業記念品	197,652	197,652	0	卒業証書ホルダー
CD制作費	0	0	0	校歌CD制作費 3年に1回制作(入学生に贈呈)
翻訳会議費	500,000	465,760	34,240	同期会通信費(期の同窓会通信費)
報償費	300,000	300,000	0	お琴の先生謝礼金等
支部活動費	600,000	599,021	979	同窓会支部へ
その他の内訳	100,000	65,652	34,348	全日制／創立記念講師謝金・交通費・等
会議費	300,000	293,100	6,900	役員・理事会等費用
事務費	740,000	638,869	101,131	
内訳				
通信費	30,000	26,823	3,177	切手・葉書・電話費等
手当	560,000	560,000	0	事務職員手当
事務用品	150,000	52,046	97,954	パソコン用品・印刷用紙・事務用品・等
国際交流基金	100,000	100,000	0	ニュージーランド助成金・等
施設・設備費	684,600	684,600	0	自動体外式除細動器(AED)
雑費	100,000	26,200	73,800	自動体外式除細動器 講習会用キュー マスク等謝金・資料室備
予備費	3,127,748	178,410	2,949,338	東京支部への参加費用等
合計	9,850,000	6,198,006	3,651,994	

上記の出納を検査し、正当かつ正確であることを認めます。

平成18年5月17日

監事 高津匡雄 岡田美佐子

平成17年度 事業報告

- 5月10日 創立記念式(全日制) 洲本高校体育馆
演題「目標に向かって」
北浜法律事務所弁護士
山浦 美紀 氏(高校48回生)
- 5月10日 創立記念式(定時制) 洲本高校生徒集会室
演題「定年退職を迎えて 一病院の裏方としてー」
兵庫県立淡路病院職員
柳原 成行 氏(定14回生)
- 6月16日 同窓会役員会 応接室
- 7月1日 自動体外式除細動器2台 寄贈
- 7月6日 淡路高女・淡交會・総会 海月館にて
- 7月15日 同窓会理事会 あやぐもホール
- 8月下旬 会報発行 (会費納入者のみ)
- 10月15日 自動体外式除細動器の講習会 地域との交流会
上物部(川西地区) 同窓会より6名参加
- 10月23日 総会 洲本市文化体育馆にて 10時(総会165名参加)
講演 10時30分~11時30分
講師 書家 桑 莊二郎 氏(洲高1期生)
演題「古代文字からマンガ文字まで
~漢字はなぜ遅[け]り変わるのか~」
懇親会 12時~ 海月館にて(133名参加)
- 11月5日 東京支部第1回総会に出席(3名)
- 11月21日 総会役員会 応接室
- 12月19日 役員会・理事会・校内洲高卒業先生・懇親会
海月館にて
- 3月27日 総会理事会 あやぐもホール